

## 日蓮の新靈言 (2015年9月5日靈示)

担当:石田昭 2015年10月31日

- 1 靈言を再度取る意味、能力が喪失したとして、会員が奪われているのでやり直しのため。
- 2 総裁の誕生以前に新しい宗教の傾向と方向性について会議がもたれた。日本を基点として世界の宗教を再構成し、地球レベルの宗教を作り上げる工夫、靈界の国連が出来ていた。
- 3 政治性の強い日蓮宗と国教とも言える日本神道の二つの流れを源流に取り込んだ。
- 4 日本が宗教国家になったときには、自民党は解体し、幸福実現党に吸収される。創価学会は撃破すると最初から決めている。創価学会・公明党の分裂騒ぎ、天上界での計画なのか？
- 5 法華経には「四民平等」という民主主義を800年先取りする思想があると気付いた。「久遠実成の仏陀」という思想が出たのは法華経が最初。人間仏陀説の中村元は地獄で反省中。
- 6 天御中主、天照大神の日本神道は前の大戦を「聖戦である」と支持していた。日蓮も同じ思想。それと反対の教えが「創価学会」で反戦思想、中国との媒介役を担っている。
- 7 明治維新を完全否定し、敗戦に繋がったとする人が今出ているが、そんな事はない日本には使命があった。誰？原田伊織、西鋭夫、「明治政府を否定せるもの」「徳川のものを全て」神武？
- 8 中国や韓国に阿っている左翼の連中は知るべし、両国には神が存在しなかった時期があるが、日本の歴史のなかで神不在の時期はなかった。日本から神が離れた事はなかった。
- 9 寛容で包容力のある日本だから、古代ギリシャのような繁栄国家が現代にまで続いている。西洋型の宗教には神の存在もあるが、完全唯物論に陥る可能性があり、継続できない。
- 10 機械文明の発達は大変だが、精神文明のほうを取らないと人間は退化する可能性がある。ベータ星(レプタリアン)の科学文明より、地球の精神文明、諸如来諸菩薩の教えの方が大切。
- 11 当時と違って、幸福の科学は国際レベルにまで発展しているので、チャンスが大である。近い将来、雪崩を起こしつつ、地滑りの的に大きな思想変動が起きる可能性がある。
- 12 「真理の敵と永遠に戦う」という立場を忘れるな。私は「恐れなくて戦う」という気持ちを持っていたので。今回、「後に続け」と突撃する姿勢を示すのが仕事と思っている。
- 13 マスコミ、政治団体など、反撃してくる勢力がないのは、「言論力の強さ」があるから。当会が「安保法制反対デモ」に反応しないのはもっと大きなものを狙い、実に巧妙な戦い方をしているから、大川隆法は事実上「日本の神」になっている。否定する人はいない。
- 14 組織で動く事は大きい、一個一個の“砲弾の衝撃力”を大きくしていくことが大事、今マスコミが報道するなら「日本に神が降臨した」と書かざるを得ない、だからできな。「現状維持」というのが9割の凡人のあり方です。地震学者も全員「現状維持」「生活第一主義」
- 15 「過去・現在・未来が全部見通せる」というのは神の力であり、今、これを実証している。
- 16 中国は幸福の科学の思想によって、崩壊する。生きていうちに14億の大中国が崩壊していく姿を見る。香港の雨傘革命をやった人は「地球神の考え」を知ってしまった。
- 17 総裁は二十代のころから、「日本一の智者たらん」と願っていた。それはソクラテス以上の強い願いだった。その願いを達成するための就職先が本当はなく、青春の悩みだった。
- 18 総裁のご尊父が父親になることは(戦死がないと分かった)終戦後の段階で決まった。
- 19 咲也加・直樹夫妻の使命は、「大東亜戦争のリベンジ」、「世界を救うための思想だった」という意味でのリベンジである。欧米や中国中心の戦後支配体制には数百年に渡る悪のカルマがある。それを指摘し、負けた日本を悪魔の権化のように封印する事は許さない。
- 20 「日本神道的な教えを海外に広げたい」との願いで作った鳥居などが焼き払われた。これをもう一回再興させたい。神産巢日神の「日本神道の雰囲気薄いのは良い」とは違いがある。